

普及現地情報



発信年月日：令和6年（2024年）6月6日
所属名：高島農産普及課
番号：H24004
部門分類：160（果樹）
発信者名：三溝、山下

「高島いちじく」産地でカミキリムシ類対策の実証試験が始まる！

「高島いちじく」では、以前からカミキリムシ類による被害により、樹勢の低下が見られる一方で、防除対策として有効な「ガットサイドS」の販売終了が予告されていることから、代替資材による防除技術の確立が急務となっています。

そこで、5月22日（水）に農薬メーカー等とともに、「バイオリサ<カミキリ>スリム」を現地生産ほ場に設置するとともに、5月30日（木）にJAレーク滋賀が開催した「高島いちじく」栽培研修会においても、生産者に向けて資材の紹介と実証試験の様子を見ていただきました。

当課では、平成20年から高島市内でのイチジク栽培を推進しており、令和5年には生産者は17名、約1.8haの産地となっています。特にJA出荷されたものは「高島いちじく」として販売されています。しかし、古木を中心に、以前からカミキリムシ類の被害により樹勢の低下が認められており、カミキリムシ類防除対策として有効な農薬である「ガットサイドS」は令和8年9月末で販売終了見込であることから、代替資材による防除技術の確立が急務となっています。

そこで、当課は、5月22日に高島市内のイチジク生産者の協力のもと、代替資材として期待される「バイオリサ<カミキリ>スリム」をJAレーク滋賀、農薬メーカー担当者とともに、イチジクの樹に設置しました。

また、5月30日（木）にJAレーク滋賀が開催した「高島いちじく」栽培研修会では、生産者および関係者あわせて8名の参加があり、芽かき作業を含めた今後の栽培管理について実演も交えながら説明しました。併せて、「バイオリサ<カミキリ>スリム」の概要を説明し、実証試験の様子を見てもらうことで、理解を深めていただきました。

当課は引き続き関係機関と連携して「バイオリサ<カミキリ>スリム」の効果を検証するとともに、「高島いちじく」産地のさらなる発展に向けて支援していきます。



「バイオリサ<カミキリ>スリム」の設置



栽培研修会